

学習内容報告書 フォーマット

学校名	唐津市立大志小学校
授業者	藤井桂子 木村和彦

1. 単元計画

- (1) 唐津の海や西の浜について知ろう (10時間)
- (2) 海の問題について調べよう (20時間)
- (3) 海について学んだことを伝えよう (20時間)

1-1. 単元名

海に学ぼう

1-2. 学年

5年

1-3. 教科 (単元を実施する教科を全てお書きください)

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

本校は「海につながる」というテーマで「海洋教育」に取り組んでいる。5年生は、総合的な学習の時間の「海に学ぼう」という学習の中で、唐津の海について「環境」「楽しさ」「生き物」「歴史」の4つの観点で調べ、これまで守られてきた海、そしてこれから守っていかなければならない海を「持続可能な開発」への視点を持って発信をしていこうという学習を進めている。

そこで、まず、唐津の海や西の浜の素晴らしさや問題点について、気付かせたい。そのために、ヨットハーバーでの海洋スポーツ体験や西の浜を調査する時間を設定する。そこでの活動を通して、マイクロプラスチックをはじめとする海洋ゴミや、それに伴う環境問題についての気づきや問いを持たせる。自分たちで見つけた課題について詳しく調べていく中で、より視野を広げたり、考えを深めたりするために、ゲストティーチャーの活用や家庭での取り組みなどを設定することで、課題を自分事として捉え、実践へとつなげていけるようにしたい。

さらに、単元末には、これまでに学んだことを伝える活動として、カルタや新聞、ポスター作りなどを行い、発表する活動を設定し、まとめとしたい。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

唐津の自然に触れ学びとる活動を通して、海とつながる (tie sea) 学びを進める。海洋ゴミを調べさせることで、身近な課題に気づき、今後自分たちができることへの実践力をつけさせたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- (1) 「海と関わる」活動を行うことで、子どもたちは海や自然の素晴らしさに気づき、大事にする気持ちを高めることができる。
- (2) 海洋ゴミを調べる活動を通して、身近な課題からつながる環境問題について考えることができる。
- (3) 調べたことなどを表現し、発表したり感想を聞いたりして伝え合う力を育成することができる。

1-7. 単元の展開（全50時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 0 時 間	<p>唐津の海や西の浜について知ろう</p> <p>○唐津の海や西の浜の素晴らしさや問題点に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋スポーツ体験をする。 ・西の浜のゴミ拾いをして、ゴミの種類を詳しく調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県ヨットハーバーと連絡を取り、安全に活動ができるように準備をする。 ・集めたゴミを調べる中で、種類だけでなく、色や大きさ、材質などにも着目させ、マイクロプラスチックの存在に気付かせる。 <p>【評価】</p> <p>唐津の海や西の浜の素晴らしさや問題点について、調べてみようという思いを持つことができたか。(主)</p>
2 0 時 間	<p>海の環境問題について調べよう</p> <p>○海洋ゴミについて詳しく調べ、自分たちにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックについて、インターネットなどを活用して、詳しく調べる。 ・家庭でのゴミ調べやプラスチックゴミの削減に取り組む。 ・調べたことをもとに、誰に何を伝えたいのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックは身近なところから発生しており、世界規模で問題になっていることに気付かせる。 ・家庭での取り組みを設定することで、自分事として捉えさせるようにする。 ・ゲストティーチャー (Eco. robo. mate, 佐賀県立唐津東高校) <p>【評価】</p> <p>海洋ゴミを詳しく調べることで、環境問題について課題意識を持ち、自分たちにできることは何かを考えることができたか。(思・判・表)</p>
2 0 時 間	<p>海について学んだことを伝えよう</p> <p>○学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを伝えるために、カルタ、新聞、ポスター、作文にまとめる。 ・下級生と一緒にカルタをしたり、新聞やポスターを発売したりして、感想や意見をもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい相手を意識して、学んだことを分かりやすく表現できるように助言する。 <p>【評価】</p> <p>学んだことを分かりやすくまとめることができたか。(知・技)(思・判・表)</p>

2. 学習活動の実際

唐津の海や西の浜について知ろう

2-1. 単元における位置づけ

単元 10 時間中の 9, 10 時間目

※例：単元10時間中の2時間目 / 単元15時間中の4,5時間目

2-2. 本時の目標

集めたゴミを調べる活動を通して、ゴミの種類だけでなく、色や大きさ、材質などにも着目し、マイクロプラスチックの存在に気付くことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1. 活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">西の浜のゴミ拾いをする。集めたゴミを詳しく調べる。 <p>2. ゴミ拾いをする。</p> <ul style="list-style-type: none">ゴミを種類ごとに分けながら集める。	<p>(準備物)</p> <ul style="list-style-type: none">ゴミ袋 ・ 軍手 ・ バケツ ・ スコップ <p>○海に入らない、鋭利な物は素手で触らないなど、安全面に気を付けさせる。</p> <p>○ゴミは分別し、袋ごとに集めさせるようにする。</p> <p>○手では拾えないような、砂に混じったゴミがあることに気付かせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">集めたゴミを詳しく調べて、どのような種類のゴミがあるのかを知ろう</div>	
<p>3. グループに分かれてゴミを詳しく調べる。</p> <ul style="list-style-type: none">ゴミを分別し、どのような種類のゴミが多いのかを調べる。砂に混じったゴミを水の入ったバケツに入れ、浮いてきたゴミを調べる。 (マイクロプラスチック)	<p>○ゴミはどこから来ていて、どのような場面で出された物なのかを考えさせながら、分別させる。</p> <p>○水の入ったバケツを用意し、ゴミと砂を分離させる。</p> <p>○水に浮いてきたゴミを、色、大きさ、材質などに着目させながら観察させる。</p> <p>○カラフルな色、小さな粒、プラスチックなどの特徴に気付かせ、それら(マイクロプラスチック)がたくさん砂の中に混じっていることに気付かせる。</p>
<p>4. 観察学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none">発見したことを発表し合う。感想を交流する。	<p>○マイクロプラスチックを詳しく調べていくことを確認する。</p> <p>【評価】(知・技)</p> <p>集めたゴミを調べる活動を通して、ゴミの種類を知るだけでなく、これまで知らなかったマイクロプラスチックの存在に気付くことができたか。(観察・発表)</p>

3. 今回の活動の自己評価

活動を軸に、一年間を通して、意欲的に取り組むことができた。一学期は、体験を多く取り入れ、唐津の海の素晴らしさや西の浜にたくさんのプラスチックゴミがあることに気付くことができた。二学期は、マイクロプラスチックを詳しく調べていく中で、それらが及ぼす影響などを知った。ゲストティーチャーを招聘し講話をしてもらったことで、世界規模で問題とされていることなどを知り、視野を広げることができた。また、家庭でも取り組みを行ったことで、自分事として問題を捉えることができるようになった。三学期は、学んだことを発信するという活動として、カルタや新聞、ポスターを作成した。伝えたい相手を意識しながら、分かりやすく表現できるように工夫することができた。今回の学習を通して、学びがここで終わりではなく、自分事として考え続け、今後の生活に課題意識を持ちながら取り組んでくれることを期待する。

4. 今後の課題

- ・ゲストティーチャーの選定や活用に苦慮したので、単元の後半に招聘することになってしまった。早めに計画することで、もっとスムーズに学習を進めていくことができるのではないかと考える。
- ・国語科や社会科など、他教科との関連を考えることで、学びをより深め、広げていき、発展的なものへとつなげていくことができると思われる。
- ・一年間を通して、同じテーマで学習を進めていくので、子どもたちの興味・関心が継続していくような工夫や手立てを考えていく必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・体験的な活動を取り入れるので、安全面での配慮が必要となる。また、家庭での調査や取り組みも行うので、協力してもらえようをお願いをする。
- ・子どもたちだけでは、学びの深まりや発展はなかなか難しいため、ゲストティーチャーの活用は大変有効であった。そのための講師選びや活用の仕方を考えておく必要がある。
- ・学習後も学びが継続していくことが望ましいので、課題意識を持たせるような工夫や手立てを考えておく必要がある。